

# 環境白書の刊行にあたって

近年、気象災害が激甚化・頻発化し、令和元年東日本台風（台風第19号）や令和2年7月豪雨など、毎年のように多くの犠牲者や被害が発生しています。気候変動の要因とされる地球温暖化は進行しており、今後も豪雨や猛暑のリスクがさらに高まると予想されています。



群馬県は、「2050年に向けた『ぐんま5つのゼロ宣言』」の宣言2で「温室効果ガス排出量ゼロ」を掲げ、さらに、本年3月策定の「群馬県地球温暖化対策実行計画2021－2030」で2030（令和12）年度の温室効果ガス排出量を2013（平成25）年度比マイナス50%にするという高い目標を掲げ、全力で取り組んでいます。

また、人口減少や人口構成の変化、デジタル技術の進化や技術革新などの社会経済情勢の変化に対応し、新たな環境行政を展開するため、本年3月、「群馬県環境基本計画2021－2030」を策定しました。環境・経済・社会の課題を統合的に解決するSDGsの考え方にに基づき、温暖化対策と経済成長を両立させて脱炭素・循環型社会を実現し、持続可能な自立分散型社会を目指します。

本県は、長い日照時間や豊富な水資源・森林資源など再生可能エネルギー資源に恵まれています。また、自動車産業をはじめとする、高い技術力を持つ産業が集積しており、温暖化対策と経済成長を両立させる上で、高いポテンシャルを有しています。

この高いポテンシャルをフル活用し、本県が先頭に立って、再生可能エネルギーの導入拡大、エネルギーの地産地消・自立分散化、温暖化対策に取り組む企業の支援等を推進することにより、大きな経済成長につなげ、環境と経済が好循環する持続可能な社会を構築し、県民の幸福度を向上させたいと考えています。

この「環境白書」は、本県の環境全般の現状を明らかにし、多岐にわたる環境問題の解決に向けた取組の実績及び2021（令和3）年度に講じる施策についてまとめたものです。県民の皆様が本書を通じて、本県の環境の現状や将来に関心を持ち、持続可能な自立分散型社会の実現に向けた一歩を踏み出すきっかけにいただければ幸いです。

2021年9月

群馬県知事

山本 一太